アマチュアだから・・・

日本がイタリアに惨敗したとき、エリサルド・ヘッドコーチが、「日本の選手はアマチュアだから仕方ない」と話したことを、どう受け止めるべきかという問いに対して、協会サイドからのコメントがあるだろうが、一応答えておきます。

以前、「シャンペンラグビー」という言葉を安易に使う弊害を避けるために、適切な解説が必要であると書きました。今回の話もそれ以上の解説が必要です。通訳によって内面的本意が間違いなく伝わることが大切です。曖昧であったり、間違った内容がひろまることは、選手にとっては勿論のこと、関係者を始め一般ラグビー愛好者全てにとって進歩の糧になることが全く無く不幸なことです。

返答は尋ね方によって変わります。「今日の試合の感想は・・・」と尋ねた場合と、「大敗の原因は・・・」と尋ねた場合では異なるのが当然です。「アマチュアだから」という返答が何という問いに対したものか前後の会話も知りたいものです。

コーチが求めているのは、「プロ」らしい戦い方です。それは心も技も身体もプロ即ち職業としている者にふさわしいレベルであることが要件です。昔、プロ野球の鶴岡一人監督が、大阪流に「銭のとれる選手」と言いましたが、プロ選手は高度の心技体の鍛練とパーフォーマンスが期待されます。

プロ化問題について、日本は世界の動きに立ち遅れ未成熟な状態にあるわけですが、一般的にプロ化に関心の浅いこともその原因であると思います。

1960 年代に起こったラグビーの波の中にプロ化という大きな波がありました。RFU100 周年に記念の会で加速しました。画期的なこととして次の 3 つがあげられます。

1．一体となって団結し IRB 主導
2．プロ化加速
3．W 杯実施

プロ化第 1 号は Don Rutherford のフルタイム技術顧問就任です。彼は研究、講演、資料作成、実戦指導に活躍しました。日本へもイングランドチームに同行した時と、協会の招きで技術指導に 2 度きました。世界の指導者のプロ化と選手のプロ化が進みました。

日本が本格的に考え出したのは、ルールブックから「アマチュァ宣言」が削除されてからですからスタートが代分遅れました。以後も企業と 2 人 3 脚で進めたことは合理的な面はありましたが、中途半端になり、ドリームチームが生まれず、選手も不完全燃焼というべき不幸な状況にあります。資金捻出をリードする組織化とそのエネルギーが問題です。プロ選手の素晴らしい活躍やドリームチームの華やかさは、小さい子供から青少年さらに成人プレヤーの夢となり、励みとなって、ラグビーの普及に必要欠くべからざるものです。アマチュア選手に世界に通用するプロの心技体を求めるのは無理であるという現実を肯定しなければなりません。面白いラグビーを再発見し、世界に通用する強さと、夢のあるプレーが見られるという 2 つの要件を満たすために、「アマチュァだから仕方ない」という言葉を軽率に聞き流してはなりません。心、技、体に分けて分析することはラグビー復活のために奮起する材料になると思います。

2006.07.23
西川　義行